

## 人物紹介

## 今村 荒男

大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター 露口 泉夫

## 生い立ち

奈良の法隆寺に近く、「安堵町歴史民俗資料館」がある。先生はここを生家に明治20年に生まれた。現在ここには今村家に関する資料等が展示されているが、近くには陶芸家・富本憲吉記念館がある。郡山中学同窓の二人は終生その友情を厚くしたという。大正元年東京帝国大学医学部を卒業、青山内科、伝染病研究所（伝研）を経て、大正14年に大阪医科大学（現在の大阪大学医学部）へ移った。阪大では結核専門診療科として設立された肺癆科（佐多愛彦教授）から発展した第三内科の初代教授となる。ちなみに先生は伝研時代に自らも結核を病み、5年間の闘病生活を余儀なくされた。その療養中に、「もし病気がよくなったら結核研究に打ち込みたい」と決意されたという。

阪大赴任とともに先生は結核の診療と研究に専念することになる。第一次大戦が終結したところで、当時より大阪の肺結核患者数は多く、大正4年には阪大微生物病研究所（微研）の基礎となる竹尾結核研究所が創設され、所長を兼務された。阪大第三内科と竹尾結核研究所、これを両輪として結核の臨床と研究を展開され、その後微研所長を経て、昭和21年には第5代阪大総長に就任し、阪大をそれまでの理科系大学から文科系を加えた総合大学へと発展させた。余談であるが、結核空洞形成の研究で大きな業績を上げられた山村雄一博士（本誌別項参照）とともに、お二人は奇しくも阪大第三内科教授を経て阪大総長になられている。昭和5年、第8回日本結核病学会会長、昭和38年、第16回日本医学会総会会頭を歴任された。昭和35年には医学界への多大の功績により文化功労者として顕彰された。そして昭和42年6月13日に逝去されている。阪大講堂で行われたご葬儀には当時の法隆寺管長が参列されていた記憶がある。先生は生前法隆寺信徒総代であった。座右の銘「理想ヲモテ而シテ其レニ生キヨ Stake your life on your ideal」そのままに、81年の人生を全うされたと言えよう。

以下に、結核病学とのかかわりにおける先生の業績を記す。なお、内容の詳細に関しては本誌の「BCG」の項に委ねたい。



## BCG 接種の推進

当時はもちろん結核に対する治療法は確立されておらず、人々の関心はむしろ、「どうすれば結核にかからずにすむか」にあった。そうした中で先生は結核予防の研究に懸命に取り組み、そのことが我が国における予防医学の発展に貢献した。昭和2年の総会では、「結核ワクチンの予防的効力批判」と題して、それまでの「AO」をはじめとするいわゆる「結核ワクチン」の効果を比較して報告、「結核の予防は結核免疫にあること、生菌であるBCG接種がもっとも有望である」と主張された。またその機序に関しては、「BCGを与へても初感染は成立するが、只初感染を軽減し之により初感染疾患を少なくする」と考えた。昭和2年、パスツール研究所に留学、カルメット研究室で研鑽を積み帰国後、志賀潔博士が持ち帰っていたBCG菌株を用いて本格的な研究に取り組むことになる。

新規採用の若い看護婦でツ反陰性者からの発病が多いという結果を得、昭和5年にはツ反陰性の新入看護学校生徒にBCGを皮下接種した。日本での初のBCG人体接

種である。昭和11年、当時では先駆的な対照比較試験の解析からBCG接種の結核発病予防効果を科学的に実証した。これらの結果はその後、結核予防法にBCG接種が採用される根拠となった。

#### 結核集団検診

結核予防に向けた先生のもうひとつの取り組みは、積極的な患者の発見であった。それに威力を発揮したのがX線間接撮影装置を載せたバスによる集団検診である。住民や職場を巡回するこの集団検診車を初めて導入したのが阪大第三内科であり、試作したのが今村教授であった。このX線撮影とツ反-BCG接種という集団検診の実施を基に昭和15年の第18回総会で、10万人に及ぶ国民を対象にした、「結核に関する集団検診」と題する宿題報告を行っている。そこでは、「患者発見率の高い低所得者層の周囲検診、伝染の危険の強い職業集団の検診を、直ちに励行すべきである」と指摘し、今日の結核予防対策理念の基盤をつくった。

#### 附：「今村賞」について

先生が逝去されて後に、日本結核病学会に「今村賞」

が設立された。昭和44年の第1回から平成22年までに計55名の方が受賞されている。ここに学会ホームページから、「今村賞」についての解説を引用しておきたい。

日本の結核研究の草分けのひとり、また大阪帝国大学での結核研究の伝統を築いた、今村荒男教授という偉大な先生を記念して、結核予防会大阪（府）支部からの寄付金によって基金を設立し、優れた結核研究の成果をあげた研究者を顕彰するものです。

（財）結核予防会は昭和14年に官民一体となった結核予防の推進のための実務機関として設立された。秩父宮妃殿下を総裁に戴いて誕生した。今村先生は第三内科教授の傍ら、結核予防会大阪府支部長の職にあった。

#### 〔参考文献〕

梅溪 昇：「第五代総長 今村荒男」。大阪大学歴代総長餘芳。大阪大学出版会，2004。

立辺純太：「第三内科教室史 医学界を先駆した阪大第三内科の100年」。大阪大学第三内科同窓会編，大阪大学第三内科100周年記念誌，平成18年。

「今村荒男教授 結核研究業績集」。大阪大学第三内科他編，昭和35年。

「日本結核病学会50周年記念号」。結核，1975；50（11）。